

事業所名		放課後デイサービスいっばい宮下			公表日		2026年 3月 23日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	園庭もあり、定員に対して十分なスペースが確保されている	標準の放課後デイより広い事業所ではありますが、気候・天気の良い日は庭遊び・公園遊びを積極的に取り入れ、子供たちの発育によりよい環境を提供できるように工夫をしています。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		4	3	法令で必要とされる配置数2名に加え、児童指導員を1〜2名、計3〜4名配置しています。	配置はしていますが、強度行動障害の方も利用いただいております。個々の支援には足りていないと感じる場面があり、配置や環境調整に努めています。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7	1	車いすの方でもご利用いただけるようスロープやバリアフリーの構造となっている	これからも皆さまが過ごしやすい環境を継続していきます		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		8	0	清掃箇所や手順等を定めたチェックシートに基づき、毎日清掃・消毒を行っています。指導室内は、お子様の注意集中のため、極力シンプルな内装としております。	継続してまいります。感染症対策もしっかりと行っています。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6	2	パーテーションや個室、安静室を設け特性に応じて配慮できる環境を整えています。	個別対応が必要な場面において、より柔軟に対応できるよう空間の使い方や環境整備の工夫が必要である。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	毎日開所前と毎週1回職員が参加する会議を行っています。	業務改善の取組について、全職員がより主体的に関われる仕組みづくりの強化が必要である。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	評価表を実施し、業務改善につとめている。会議で 周知徹底している。	保護者からの意見をより具体的に支援や運営に反映させるための仕組みの強化が必要である。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	アンケートや職員の意見を言えるツールがあり、自由に発言できる環境を設けている	職員の意見をより幅広く収集し、実際の業務改善につなげるための体制づくりが必要である。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	6	第三者委員はおこなっていない	第三者による外部評価が未実施であるため、客観的な視点を取り入れる機会の検討が必要である。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	法人内でも研修をおこなっており、外部研修に関しては研修費の補助をおこなっている	継続して実施してまいります。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	2	支援プログラムを作成しHPIにupしている	支援プログラムの内容について、より分かりやすく周知・共有する工夫が必要である。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	1	スモールステップで現状の課題・目標を明確にしている。	アセスメントの精度を高めるため、情報収集と分析の質の向上が必要である。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	目標を全体へ共有し、意見を出し合い、随時更新している。	継続して実施してまいります。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	2	アプリツールにて共有している。	支援計画の内容が全職員に十分に浸透するよう、共有方法や確認体制の強化が必要である。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2	ABC分析をおこない、アセスメントをおこなっている	フォーマル・インフォーマル双方のアセスメントをより体系的に活用し、支援に反映させる仕組みの強化が必要である。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	3	面談の内容をもとに、目標を設定している。支援目標および具体的な支援内容は、職員全体に周知されている。	支援内容がより具体的かつ統一的に実施されるよう、職員間での理解と実践の質の向上が必要である。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	基本的に常勤内で話しあい決定し、非常勤職員 の意見も取り入れて行っている。	より多くの職員が主体的に関われるよう、チーム全体での立案体制の強化が必要である。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	2	こどもたちの課題に合わせて随時更新している。継続されるべき項目もあり、随時見直しを行っている。	活動の意図や目的を共有しながら、より一貫性と柔軟性を持ったプログラム運営が必要である。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	2	日々の活動の中に、どちらも組み込んで実施している。	子どもの状況に応じた個別と集団のバランスについて、より適切な調整が必要である。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	業務開始前にミーティングを行っている	継続して実施してまいります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	記録を記載し、話し合いを行っている	全職員が確実に振り返りに参加・共有できるように、仕組みや時間の確保が必要である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	手書きにて記録し、個別のファイルに保管している。	継続して実施してまいります。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1	半年に一度見直し、話し合いをおこなっている	モニタリング結果をより迅速かつ具体的に支援へ反映する体制の強化が必要である。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5	3	実施している	ガイドラインに基づく活動の位置づけを明確にし、意図的な支援としての整理が必要である。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	2	選択できること、自己主体感をもてることを意識し支援を行っている	自己選択の機会をさらに増やし、主体性をより引き出す関わり強化が必要である。
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	2	基本的に児発管が参加している。
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	3	学校、相談支援事業所とは密にやりとりしている	学校や関係機関との連携の質をさらに高め、一貫した支援につなげる必要がある。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	もに、適宜 電話にて連携をとることもある。学校の伝言板に発信しているのを写真を撮って共有している。	継続して実施してまいります。
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	1	就学前にあらかじめ児童発達支援に出向き、状況を見学している。	就学前からの情報共有について、より体系的な連携体制の構築が必要である。
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2	情報提供書をお渡しし、情報共有している	卒業後の移行支援について、より計画的な情報提供と連携の強化が必要である。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	3	研修を受けたり、話し合いをする機会あり	スーパーバイズは受けていないが、必要に応じて実施していく
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	2	6		地域の子どもの交流機会を意図的に設けるなど、地域とのつながりを強化する必要がある。
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	4	ネットワークの副ネットワーク長をしている	地域の会議等への参加を通じて、情報収集や連携強化をさらに進める必要がある。
34		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	4	随時、電話やアプリツールを使用して伝達し、送迎時にも必要に応じて情報共有している。	保護者との情報共有について、より双方向でのやり取りの充実が必要である。
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4	アプリツールを使用して、適宜研修の案内をしている。	家族支援の機会をより参加しやすい形で提供し、活用促進を図る必要がある。
保護者への説	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	3	契約時に説明している。	運営規程や支援内容について、より分かりやすい説明の工夫が必要である。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	2	子どもたちに対しても面談をおこない、目標や課題の聞き取りを行っている	子ども・保護者の意向をより丁寧に反映できるように、確認機会の質の向上が必要である。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	2		支援計画の内容について、より理解しやすい説明と同意形成の工夫が必要である。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	2	事前面談を実施し、保護者のご希望やお困りごとなどを把握するよう努めている。また、随時 なんどきでも相談できる体制を整えている。	相談機会のさらなる充実と、利用しやすい体制づくりが必要である。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	7	1	月に1度、保護者交流の場を設けている。	保護者同士の交流機会について、より参加しやすい工夫や周知の強化が必要である。

明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	LINEや電話にていつでもご連絡いただける体制を整え、迅速に対応できるよう努めている	継続して実施してまいります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	0	アプリツールを使用して発信している。	継続して実施してまいります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	鍵付き書庫に保管し、全職員が個人情報保護について学ぶ機会を設けている。	継続して実施してまいります。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	説明を心がけるとともに、視覚的な情報を用いながら、意思疎通がしやすいように配慮している。	継続して実施してまいります。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	8		地域との関わりを広げる取組について、プライベートに配慮しながら実施方法の検討が必要である。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	月に1度、さまざまな想定をした避難訓練を実施している。	マニュアルや訓練内容について、より理解しやすい形での周知が必要である。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	職員間で研修・実践を行い、実際の動きや役割を確認している。	非常時対応の実効性を高めるため、訓練内容の共有と理解の深化が必要である。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	1	職員に共有するとともに、事務所内にも掲示している。	健康情報の共有について、より確実に分かりやすい管理体制の強化が必要である。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	食物アレルギーのある子どもについては、医師の指示書に基づき、職員間で情報共有を行い、対応している	アレルギー対応について、全職員が確実に理解・実践できる体制の強化が必要である。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	2	安全計画を作成し、安全管理に関する研修や訓練を実施するなど、安全に配慮した支援を実施している。	安全計画に基づいた取組の理解と実践の統一を図る必要がある。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	安全計画に基づく取り組み内容を保護者へ周知し、子どもの安全確保について連携が図られるよう努めている	継続して実施してまいります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	アプリツールを使用して、基本的に当日中に共有し、対策を検討している。	継続して実施してまいります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	きるよう機会を確保している。参加できなかった職員には情報伝達を実施している。	継続して実施してまいります。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	現状、身体拘束を実施している子どもはいないが、必要な場合の対応においては、組織内にて共有できている。	継続して実施してまいります。	